

# 「宗門寺院と戦争・平和問題」調査ご協力のおかげ

宗門総合振興計画では、現在、その基本方針に基づきさまざまな事業を推進しております。今号では、戦時被災等調査——「宗門寺院と戦争・平和問題」調査について掲載いたします。これは、基本方針「仏教の精神に基づく社会への貢献」に基づく「仏教界の各団体と連携を深め、社会的課題への対応について知見を集約し、社会に発信すると共に、公教育における宗教知識教育の推進のはたらきかけや孤独死・看取り、自死・いじめ等の社会不安に積極的に関わる」事業の一つで、社会的諸課題の調査研究として、行っております。

戦時被災等調査委員会委員

「戦時調査室」調査実施担当

龍谷大学名誉教授

新田光子

「戦後75年」の本年、宗門では戦争・平和問題への取り組みを推し進めるための「宗門寺院と戦争・平和問題」調査を開始させていただきます。

これは、全教区全寺院を対象とした調査です。調査開始にあたっては、まず全寺院に調査票を発送させていただきまます。「戦争と平和の視点」から、各寺院の歴史についての事実関係をお伺いする調査票でのご依頼は、宗門ではこれまでになく、はじめての取り組みです。また、こうした大規模な調査は、他教団においてもまったく例がないものといえます。

調査票では、皆さまのご自坊の歴史的事実についてお伺いしています。アジア・太平洋戦争をはじめ、明治期・大正期の戦争に係る事実関係のご回答をいただくことができます。これは何よさら、宗門全体ではじめて戦争関係資料を体系的に構築することができます。これは何よりもこれからの宗門の歩みのために不可欠な資料となるものですが、それにとどまらず学術的研究に必要な基礎資料になることを確信しております。

ご自坊の記録にもとづいて、組・教区・宗門全寺院に関わる歴史事実を確認し、記録した後世に伝えていく作業は、戦後かなり経った現時点で大変困難なことではありますが、宗門内外における平和構築のためには今、取り組むべき重要課題だと考えます。宗門全寺院のご回答・ご協力なしには、この取り組みを推し進めることができないことを、皆さまに十分ご理解いただきたく存じます。

このたび緒に就きました宗門の新たな戦争・平和問題の取り組みに、すべての寺院関係者の皆さまの多大なるお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。